

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：14403

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K19672

研究課題名（和文）養護教諭の共感性及び被援助志向性に焦点をあてた保護者支援プログラムの開発と評価

研究課題名（英文）Development and Evaluation of a Parent Support Program Focusing on the Empathy and Help-Seeking Preference of Yogo Teacher

研究代表者

平井 美幸（Hirai, Miyuki）

大阪教育大学・連合教職実践研究科・准教授

研究者番号：40713839

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、個別支援から援助チームの構築までを含めた養護教諭が行う保護者支援と共感性・被援助志向性の因果モデル検証（調査1）、養護教諭の共感性と被援助志向性に介入する保護者支援プログラムの開発と評価（調査2）、という2つの方向性から追究した。

調査1は、現職養護教諭を対象とする質問紙調査により保護者支援尺度を開発すべく探索的因子分析、信頼性・基準関連妥当性の検証、共分散構造分析による因果モデルを明らかにした。

調査2は、調査1で明らかになった因果モデルに基づき「養護教諭の保護者支援プログラム」を開発し、現職養護教諭を対象とするオンラインセミナーの開催によって介入を行い、評価した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでに見当たらなかった養護教諭の保護者支援に関する演繹的な知見として信頼性・妥当性を有する尺度が開発されたこと、養護教諭の認知面とりわけ共感性および被援助志向性に介入することが養護教諭の保護者支援を促進するモデル化に至ったこと、保護者支援プログラムを開発しそのリーフレットを考案したこと、である。広く養護教諭の保護者支援という実践を測定可能とし、その行動としての実践を左右する認知的側面の影響を明らかにしたことは、学術的意義を有し、養護教諭の現職教員教育や養成教育において重要な示唆となる。

研究成果の概要（英文）： This research was pursued from two angles: (1) verification of a causal model of parent support provided by yogo teachers ranging from individual support to the establishment of support teams, as well as empathy and help-seeking preference (Study 1), and (2) development and evaluation of a parent support program that intervenes in the empathy and help-seeking preference of yogo teachers (Study 2).

In Study 1, in order to develop a parent support scale, by questionnaire survey of incumbent yogo teachers, exploratory factor analysis and verification of reliability/criterion-related validity were conducted, and a causal model was revealed.

In Study 2, a “parent support program of yogo teacher” was developed based on the causal model revealed in Study 1, and its effectiveness was evaluated through intervention by holding an online seminar for incumbent yogo teachers.

研究分野：養護教育学 学校看護学 学校心理学 キャリアデザイン学

キーワード：養護教諭 保護者支援 共感性 被援助志向性

## 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、学校における連携・協働の新たな枠組みとして、「チーム学校」の考え方が導入された(中央教育審議会, 2015)ことに鑑み、養護教諭も例外ではなくその専門性を発揮することが求められ、とりわけ、コーディネートの役割に期待が寄せられている(文部科学省, 2017)ことから、チーム援助の実践の始期に学級担任と保護者、コーディネーター(養護教諭)による個別支援チームを形成することに着目し、支援者兼コーディネーターである養護教諭の保護者支援研究に着手した。

養護教諭は保護者への支援的な関わり(保護者支援)からパートナーになり、保護者と共に子どもを支援する。保護者支援には、保護者への個別支援から援助チーム構築までが含まれており、共感性や被援助志向性という養護教諭の認知面が関係すると明らかになっている(平井・中下, 2017)。

そこで、養護教諭の共感性および被援助志向性を高めることから保護者支援を促進する研究計画を立案した。

(2)養護教諭は保護者との信頼関係を築く(青柳ら, 2013; 竹鼻・朝倉, 2016)ことが重要視される一方、保護者のクレーム(辻ら, 2010)やその対応(永石, 2009)における養護教諭の困難感(青柳ら, 2015)があり、保護者支援が養護教諭の精神的健康に影響を及ぼす可能性がある(平井・中下, 2017)。研究開始当初は、共感性および被援助志向性に介入することが保護者支援の促進だけでなく、養護教諭の精神的健康の維持・改善に有効であるかを確認する予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大が、養護教諭による保護者支援という養護実践や養護教諭の精神的健康に多大な影響を認める昨今の状況により、本研究の介入プログラムは保護者支援の促進に焦点化し、検討し直した。

## 2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、新興感染症の猛威によって研究計画の変更を余儀なくされたことをふまえ、養護教諭の共感性・被援助志向性が個別支援から援助チームの構築までを含む保護者支援にどのような影響を与えるか明らかにすること、養護教諭の共感性・被援助志向性を高める介入プログラムを開発すること、介入プログラムが養護教諭による保護者支援の促進に有効であるかを確認すること、とした。

## 3. 研究の方法

(1)本研究計画は、個別支援から援助チームの構築までを含めた養護教諭が行う保護者支援と共感性・被援助志向性の因果モデル検証(調査 1)と、養護教諭の共感性と被援助志向性に介入する保護者支援プログラムの開発と評価(調査 2)、という 2 つの方向性から追究した。

(2)調査 1 として、個別支援から援助チームの構築までを含めた養護教諭が行う保護者支援と共感性・被援助志向性の因果モデル検証は、現職養護教諭を対象とする質問紙調査により保護者支援尺度を開発すべく探索的因子分析・信頼性係数の算出・基準関連妥当性(瀬戸・石隈, 2002)によるコーディネーション行動尺度を使用)の検証のための相関係数を算出し、さらに構成概念妥当性を検証すべく共分散構造分析による因果モデルを明らかにした。

(3)調査 2 として、養護教諭の共感性と被援助志向性に介入する保護者支援プログラムの開発と評価は、調査 1 で明らかになった因果モデルに基づき「養護教諭の保護者支援プログラム」を開発し、現職養護教諭を対象とするオンラインセミナーの開催によって介入を行い、評価した。チーム援助における養護教諭特有の信念を起点に、共感性・特性的な被援助志向性といった養護教諭の認知面に介入することで、保護者支援という行動の主観的評価が高まることをねらいとした。

なお、評価は、対象は介入群・統制群を設け、各オンラインセミナーの前後に質問紙調査による効果検証を行った。

## 4. 研究成果

(1)調査 1 では、計 17 項目から 5 つの下位因子で構成された養護教諭の保護者支援尺度を作成した。第 1 因子は「私は、子どもの個別支援チームを作るために担任と協力している」を含む 3 項目から成り、【学級担任と協力する個別支援チーム作り】と命名した。その他も同様に、それぞれ「私は、保護者から子どもの学校生活や担任との関係の悩み・つらさを聴いている」を含む 5 項目、「私は、保護者が家庭で子どもの社会性を支援するための助言をしている」を含む 3 項目、「私は、保護者が家庭で行うべき身体的ケアを子どもに行っている」を含む 3 項目、「私は保護者に、子どもの心身の健康について情報提供をしている」を含む 3 項目から成り、第 2 因子

は【保護者を理解し学級担任につなげる】、第3因子は【保護者へのアドバイス】、第4因子は【保護者に代わる子どもへの支援】、第5因子は【保護者と子どもをつなげる】と命名した。

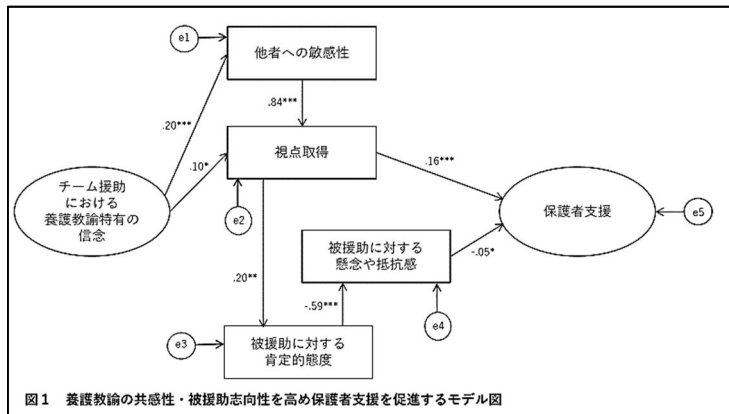
尺度の信頼性は係数の算出により、全体および各下位因子において.73~.93の十分な内的整合性を認めた。また、基準関連妥当性はコーディネーション行動(瀬戸・石隈, 2002)との相関係数を算出すると、本尺度の下位因子5つとコーディネーション行動尺度の下位因子4つのほとんどの変数間に.20~.64の弱い~中程度の有意な正の相関を確認し、併存的な妥当性を認めた。

また、共分散構造分析による因果モデルは、右図のように示された。モデルの適合度は、

$\chi^2(62)=100.47(p<.01)$

**GFI=.932** , **AGFI=.900** ,  
**CFI=.957** , **RMSEA=.055** であった。

以上のことから、養護教諭の保護者支援尺度は信頼性・妥当性が担保された尺度として開発され、養護教諭の共感性・被援助志向性を高め保護者支援を促進する因果モデルを解明したといえる。



(2)調査2は、養護教諭の共感性および被援助志向性に介入する「養護教諭の保護者支援プログラム」を実施する介入群、「一般的な保護者対応」を概説する統制群に対し、90分程度のオンラインセミナーを開催した。その前後には、調査1と同様の項目で質問紙調査を行い、介入前後の群別における共感性(他者への感性・視点取得)と特性的な被援助志向性(被援助に対する肯定的態度・被援助に対する懸念や抵抗感)、チーム援助における養護教諭特有の信念、養護教諭の保護者支援得点の平均値±標準偏差の差を検証した。

セミナー実施前は、介入群・統制群においてチーム援助における養護教諭特有の信念・共感性(他者への感性・視点取得)・特性的な被援助志向性(被援助に対する肯定的態度・被援助に対する懸念や抵抗感)・養護教諭の保護者支援の得点(平均値±標準偏差)に有意な差はなかった。一方、セミナー実施後は、統制群より介入群の共感性(他者感情への感性・視点取得)得点(平均値±標準偏差)が有意に高く( $p<.05$ )、保護者支援得点(平均値±標準偏差)もまた有意に高いことを認めた( $p<.01$ )。

したがって、「養護教諭の保護者支援プログラム」による介入は、共感性という認知面に効果的は働きかけがあったことが、保護者支援という行動の促進につながることが実証された。しかしながら、本プログラムによる特性的な被援助志向性への介入の十分な効果が得られておらず、今後も検証を重ねる必要があるといえよう。

#### <引用文献>

中央教育審議会：チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)，文部科学省，2015

文部科学省：現代的健康課題を抱える子供たちへの支援 - 養護教諭の役割を中心として - ，文部科学省，2017

平井美幸・中下富子：保護者との信頼関係構築プロセスにおける養護教諭が行う保護者支援とその影響要因，日本健康相談活動学会誌，12(1)，24-35，2017

青柳千春・佐光恵子・阿久澤智恵子 他，小学校養護教諭が行う児童虐待対応における家族支援の現状と課題 - 養護教諭へのインタビュー調査から - ，学校保健研究，55(1)，53-30，2013

竹鼻ゆかり・朝倉隆司，病気と共に生きる子どもに対する発達保障のための学校組織ならびに教員の支援プロセス - M-GTA を用いた分析 - ，学校保健研究，58(3)，154-167，2016

辻立世・永石喜代子・岡本陽子 他，養護教諭に対する保護者のクレームの考察 - 養護教諭の看護能力に関する調査研究より - ，日本養護教諭教育学会誌，13(1)，151-158，2010

永石喜代子，第6章モンスターペアレントの理解と対応 - クレーム調査と母親学研究から - 山田芳子・久保さつき・川又俊則 他，教養教育の新たな学び - 現代を生きるストラテジー - ，84-98，大学教育出版，岡山，2009

青柳千春・阿久澤智恵子・金泉志保美 他：児童虐待疑い事例の保護者対応における養護教諭の困難感の検討，小児保健研究，74(3)，366-374，2015

瀬戸美奈子・石隈利紀：高校におけるチーム援助に関するコーディネーション行動とその基盤となる能力および権限の研究 - スクールカウンセラー配置校を対象として - ，教育心理学研究，50，204-214，2002

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平井美幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 モスリングラフィック	5. 総ページ数 6
3. 書名 養護教諭のための保護者支援ワークブックー養護教諭の保護者支援プログラムー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------